

しが国際協力親善大使レポート

やくしがわ ゆか
薬師川 由佳さん

隊次：2019年度1次隊

職種：言語聴覚士

派遣国：ベトナム

自己紹介

滋賀県高島市出身 滋賀県の病院で10年余り言語聴覚士として勤務。現在はベトナム南部ホーチミン市にあるチョーライ病院において、医師や同僚とともに患者へ言語聴覚療法を実施。日々の訓練を通して同僚の知識・技術の向上を目指している。JOCV参加理由は海外旅行先で出会った現地の方が交通事故に遭い、高次脳機能障害を伴ったが、その後の生活や周囲サポートなどの環境が日本と違い興味を持ったため。

活動や生活について

2019年8月末から言語聴覚士としてホーチミン市にあるチョーライ病院で活動開始し約3か月が経ちました。同僚や実習生に助けられながら、少しずつ患者さんにリハビリテーションをしたり、訓練内容を提案出来るようになってきました。

ホーチミン市の気候は亜熱帯気候で、雨季と乾季があるものの年中通して暑い気候で日差しが強いため、日焼けが気になる私は暑くても長袖パーカーが欠かせません。私の日本の地元では雪がよく降り、春や秋は桜や紅葉が多く見られたので、四季がないのは少し物足りない感じも時々しています。

人々の生活は早朝から始まり、運動をしたりカフェで集まったりして話をしている人を多く見かけます。私は7時から活動を開始しますが、昼休みは2時間あり、昼食後は同僚とお昼寝をするのが日常になっています。ホーチミン市はベトナム最大の観光・商業都市であり日本企業や観光客も多く、私が日本人とわかると知っている日本語で話しかけられることがあります。慣れない海外生活をしている今は少しほっとする瞬間です。発展著しく、毎日どこかで工事があり、通るたびに街並みや雰囲気が変わる活気がある街だと思います。

さて、活動先の病院はベトナム三大国立病院の一つで、入院患者数は2500人、外来患者数は1日5000人と非常に多くの患者さんが南部全域から診察に来るため、病院内は常に人でいっぱいです。日本で働いていた病院は入院が最大でも440人だったので、初めて来たときは驚きの一言でした。言語聴覚士は簡単に説明すると、「ことば（考えたり、コミュニケーションを取る）や飲み込みのリハビリテーションをする仕事」です。日本でも医療リハビリテーションの中では理学療法士、作業療法士と比べると人数が非常に少なく、徐々に知名度が上がってきました。最近では全国に言語聴覚士の養成学校が出来、日々言語聴覚士が増え

ていることを嬉しく思っています。ベトナムは日本と比べると医療リハビリテーションの知名度がまだまだ低く、理学療法士は知っていても、作業療法士・言語聴覚士に関しては知らない人が断然多いです。そして、日本では大学や専門学校卒業後、言語聴覚士免許を取得して患者さんにリハビリを行います。ベトナムでは一部、理学療法士が約3か月から半年の研修を経て、言語聴覚士として元の病院で働くことができます。ベトナムの医療事情や家族・経済事情もあり、数日から1週間での入院期間のため、スタッフは知識や技術を持っていても、患者さんへのリハビリテーション期間が短すぎて、技術や臨床からの学びが十分でない印象があります。私はその中で、患者さんへの適切な評価や訓練内容など、同僚の知識・技術のレベルアップを図るためにはどのようにすれば良いかと日々奮闘しています。横に寝たまま食べると肺炎になる危険性があるので座って食べる、コミュニケーションが上手く取れないときは、何が原因でまずどんな訓練内容にするかなど、わかりやすく説明し、興味を持ってもらえるように伝える必要があります。さらに日本では病院スタッフが行うケアもベトナムでは基本的に患者の家族が行い、家族がいない場合は近くにいる他の患者家族がすぐに助けに入ることも多く、日本と比べ家族の絆や住民・コミュニティ間の協力が強いと感じます。その分、同僚達への働きかけだけでなく、患者を含めた家族指導の重要性を感じています。

そして何よりも言語聴覚士はコミュニケーションが主の職業なこと、これらを伝えるための言葉が必要なだけに、毎日ベトナム語の勉強は欠かせません。ありがたいことにベトナム人は話好きな人が多く、同僚や実習生が遊びに連れて行ってくれることもあり、実践的な会話の練習も出来ているかなと思っています。先日も実習生の故郷に招待され、ベトナム文化（食事や家族の絆）を学ぶことが出来ました。正直、文化の違いや言葉の壁を強く感じることもあり、時々辛くなることもあります。しかしだからこそ日本の良さを改めて感じる事が出来ること、同僚の優しい心遣いに気付くことも多いです。まだまだ活動は始まったばかりです。自分が教えるという気持ちでなく、現地の方々から学び、ともに高めあう気持ちを大切にしたいと思っています。そして彼らの優しさに甘えず、もっとコミュニケーションを取れるよう日々努力し、少しでもベトナムのリハビリテーション発展の一助になれるよう頑張ります。



ベトナム国花の蓮



ホーチミン人民委員会庁舎 フランス統治下時代の建物 ライトアップがおすすめ



職場の同僚と 後ろの部屋が言語聴覚療法室



実習生の故郷で。フォーや点心、フランスパンなどベトナムの歴史を感じる食事



実習生（ベトナム人）2人と。ノンラー（三角帽子）で日焼け防止